



どうなる？ これからの部活動と スポーツ指導の未来

地区中総体を終えて

中学校3年生の部活動の集大成は何と言っても中総体です。(令和5年度地区中学校総合体育大会) 前期は6月17日から18日、後期は陸上大会をメインに24日から25日に開催されました。

近年の大会では、新型コロナウイルスの影響で、応援や観戦できる人数の制限、声を出しての応援が禁止されるなど、様々な規制がありました。しかし今大会では、そういった制限がない中で選手達は競技に臨むことができました。

結果については勝負の世界です。勝って喜んだ選手、負けて悔し涙を流した選手様々でしたが、選手、応援する保護者共に全力で試合に



地区中総体で優勝を飾った最上中学校サッカー部(白)

術を向上させるために、あえて部活動に所属していないなど、様々な理由で未加入という選択をする生徒も増えてきました。

将来的な 部活動の方向性

す。表1は今年の中学校野球大会のトーナメント表です。最上地区では、生徒数の減少から、チームスポーツの人数確保に苦慮している学校が7校もあることがわかります。こうした状況は、人数を必要とするサッカー競技でも見受けられました。

最上中学校の部活動

さて、当町における部活動の生徒数についても見ていきましょう。表2では、今年度の最上中学校の部活動加入状況を表しています。昨年度までは「バレーボール部」、「剣道部」も活動していましたが、部員数の減少により、今年度から休部となっています。

また、部活動は任意加入で、未加入者などの部活動に属していない生徒もいますが、その中には、最上中学校にはない種目や、クラブチームでの活動を行なっている生徒もいます。より専門的に自分の技

最上中学校生徒数の予測

年 度	生徒総数
令和8	190人
令和9	184人
令和10	162人
令和11	153人
令和12	134人
令和13	138人

最上中学校の10年後の生徒数を見ると、20%ほど減少すると予想されます。生徒数の減少は教員数にも反映され、そので、部活動の顧問や学校の教員も減少し、活動の困難な部活動が出てくると考えられます。

このような状況は最上中のみならず、全国の中学校でも起こっていることであり、文部科学省やスポーツ庁では部活動の地域移行を進めようとしています。山形県でも、下記のイメージの通りいろいろな活動パターンを示し、地域移行を推進していこうと考えています。町でも「部活動地域移行検討委員会」を設け、これからの部活動の方向性を検討してまいります。

山形県が示す部活動、スポーツクラブの広域的な地域移行のイメージ

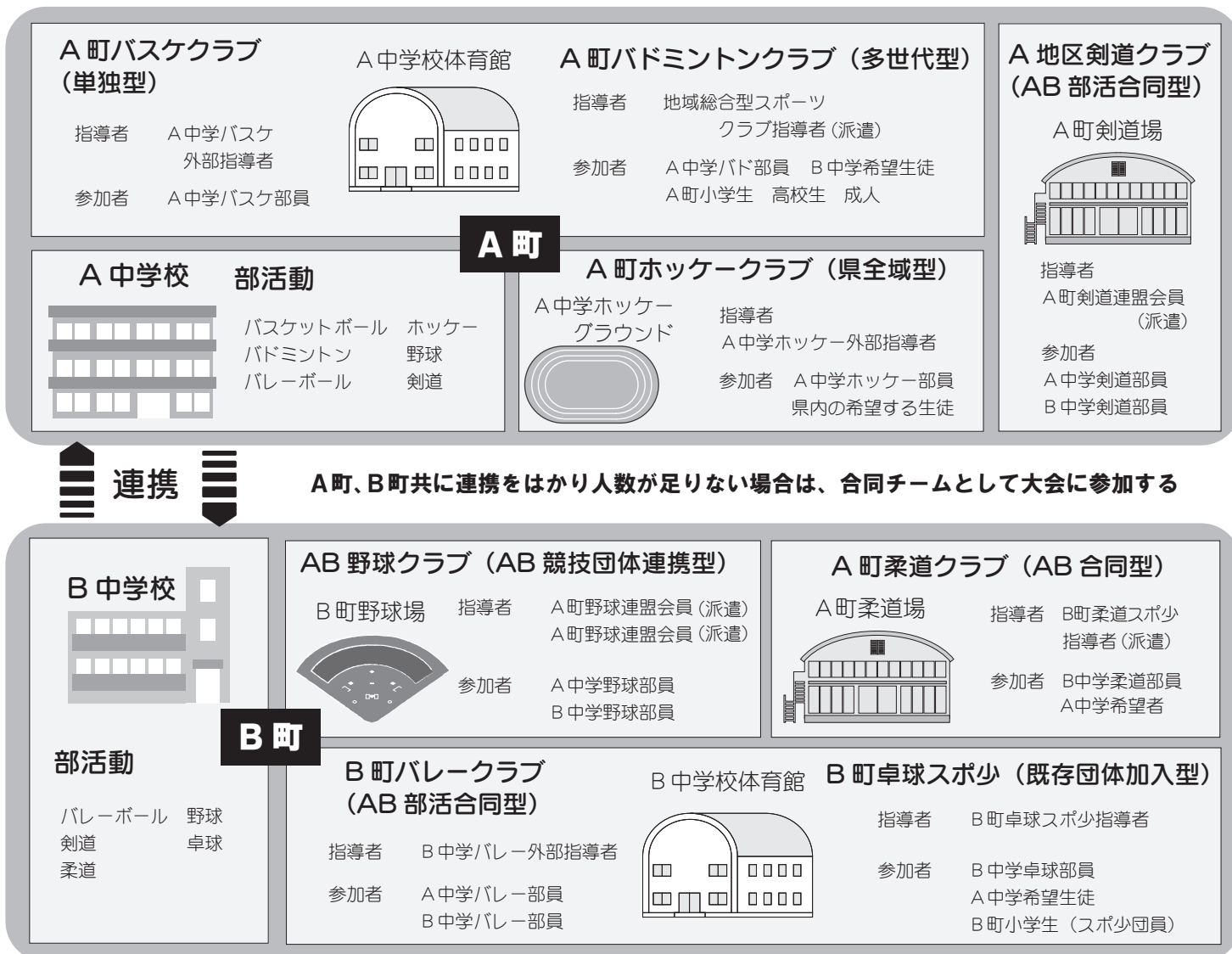
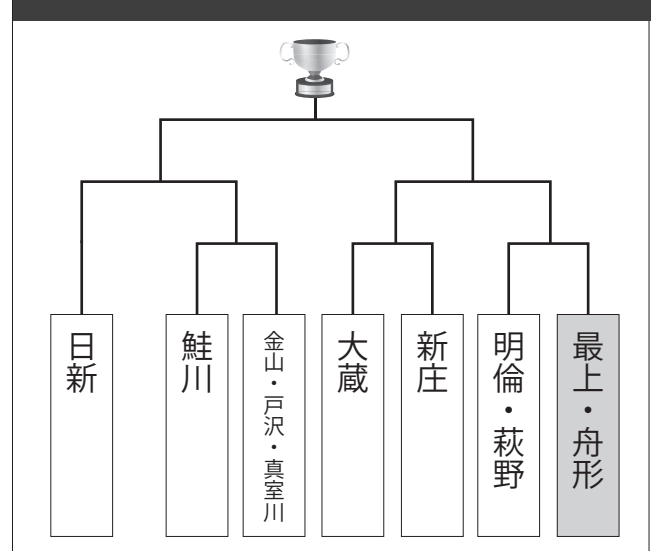


表2 最上中学校部活動加入状況表

	部活名	1年生	2年生	3年生	合計
1	野球	4	1	3	8
2	サッカー	3	8	5	16
3	ソフトテニス	男 2 女 2	9 6	0 7	11 15
4	バスケットボール	男 5 女 7	8 6	4 4	17 17
5	卓球	男 8 女 3	7 3	5 1	20 7
6	柔道	男 1 女 1	3 0	4 0	8 1
7	スキー	アルペン 0 クロカン 1	1 2	0 0	1 3
8	吹奏楽	10	8	4	22
9	未加入	4	9	12	25

表1 最上地区中総体 野球大会トーナメント表



中総体野球大会に参加した中学校数は11校。(最上地区の中学校数は12校) その中で、単独チームで出場できたのは4チームで、残り7校は合同チームでの出場。最上中学校は舟形と合同で出場しました。優勝したのは金山・戸沢・真室川の合同チームです。